

2017年7月25日  
日本生命保険相互会社

## 国際金融公社のソーシャルボンドへの投資について

日本生命保険相互会社（社長：筒井義信、以下「当社」）は、この度、国際金融公社（正式名称：International Finance Corporation、以下「IFC」）が私募形式で発行するソーシャルボンド（以下「当債券」）に1億米ドル（約114億円）投資しました。なお、当債券はIFCとして機関投資家向けに私募形式で発行する初めてのソーシャルボンドとなります。

世界銀行グループの一員であるIFCは、新興市場の民間セクター支援に特化した世界最大規模の国際開発金融機関であり、グリーンボンド市場や急成長しているソーシャルボンド市場においては、調達資金の用途等を定めたガイドラインや発行手続きの整備等で主導的な役割を果たしてきました。

当債券による調達資金は、発展途上国において小規模農家からの購入、低所得世帯への公共サービス提供、低所得層が支払い可能な医療サービス、教育または住宅の提供等を行う企業への資金供与に加えて、新興市場において女性が経営する企業に融資する金融機関を支援するために使用されます。当社は、当債券への投資を通じて安定収益を確保するとともに、投資資金が発展途上国の社会課題解決の一助となることを期待しています。

なお、当社は昨年度、国連責任投資原則（PRI）（※）への署名を行っているほか、中期経営計画「全・進-next stage-」（2017-2020）において、4年で1.5兆円の成長・新規領域への投融資を目指す中でESG債等への投融資2,000億円を目標としており、社会貢献領域への投融資を行う当債券もその一つと位置付けています。

※ 持続可能な社会の実現を目的とし、機関投資家等がESG課題を投資の意思決定に組込むことを提唱する原則

今後も、社会公共性・投資採算性をふまえ、ESG投融資を強化することで、ご契約者利益の一層の拡大に努めるとともに、持続可能な社会の形成に寄与してまいります。

## ○IFC 資金調達担当グローバルヘッド Benjamin Powell 氏のコメント



IFC は日本生命の協力のもと、ソーシャルボンド・プログラムのより一層の発展に向けて取組むことに加え、日本生命の需要に合う発行形式により新たな社会貢献投資の機会を提供できることを大変誇りに思っています。

今回、日本生命による当債券への投資を通じ、公募や私募、個人投資家向けを含む様々な債券市場においてソーシャルボンド・プログラムを発展させていく基盤を確立することができました。

## ○当社取締役執行役員 大関洋のコメント

当社は、中期経営計画において、成長・新規領域への投融資推進を掲げており、とりわけ ESG 投融資は当社経営理念とも一致することもあり、積極的な投融資を通じ、社会的責任を果たすことを目指しています。

今回、IFC が発行するソーシャルボンドへの投資を通じて、生活必需品やサービスへ充分にアクセスできない低所得層の支援や、新興市場の女性起業家が経営する中小企業の支援に貢献できることを大変嬉しく思っています。

今後とも生命保険事業の使命や公共性をふまえ、ご契約者に納得いただける運用を実践してまいります。



## <ソーシャルボンドの資金使途例>

以下は、ソーシャルボンドの一環として調達された資金が充当されるプロジェクトの事例となります。

### (小規模農家向けアグリビジネス支援)



### (低所得層の学生向け教育支援)



以上